

2023日教組平和集会レポート

15年戦争探偵団に学年みんなで取り組む

石川県教組 南加賀支部 北川 茂

はじめに

石川県教組では、毎年8月6日、9日を中心とする夏休みに行う平和教育を全県的に行っている。今回のレポートでは、8年前ではあるが社会科と総合の中で6年生4クラスの学年全員で、11月から12月の期間に、地域に飛び出し、人や遺跡・物に出会い、自分たちで調べ、地域の歴史を掘り起こす学習に取り組んだことを報告したい。

若い先生方に伝えていく

夏休みを利用して、地域に飛び出してのフィールドワークを行った。同じ学年を組む若い先生と新組合員の女性の3人を連れて自分の車で、次のような場所を3時間ほどかけて回った。寺井小学校の二宮金次郎、寺井中の横にある忠魂碑（戦争に関するお墓）、浜小学校の二宮金次郎、大浜町にある400人以上の戦没者名が書いてある忠魂碑とその慰霊碑、福島町にある真珠湾攻撃で戦死し当時の根上町のヒーローとしてたたえられ陶器の像まで建てられた朝日長章さんの大きな写真が埋め込まれている墓、粟生小学校の二宮金次郎、ものすごく立派で三すくみの石垣のある忠魂碑、手取川の洪水を復興するために集まった朝鮮人の村（新町に）今も住み続けている尹さんのお宅。若い人は、一つ一つの説明に耳を傾けながら、どんどん興味関心を膨らませていた。特に、尹さんのおうちで、在日朝鮮人のおばさん（チエさん）と、前の石川県朝鮮総連の役員をしていたおじさん（ロさん）から直接お話を聞いたことで、いかに自分たちが閉ざされた情報しか手にしていないか、その中で北朝鮮や中国に対しての反感を刷り込まれているかを肌で感じたようであった。

その後、その若い人たちは、道路で見かける忠魂碑を観察したり、戦後70年記念で鶴来図書館に展示してあった朝日小学校で見つかった青い目の人形を見に行ったりするなど、積極的に学習していた。

また、4年前にこの寺井小学校で6年生を来たばかりで持った時に自分が呼ぶ形で学年全体でお話を聞いた90歳の戦争体験者だった方とも、夏休み中に連絡が取れ、お元気であることが分かり、子どもが主体的に学習する形での聞き取り学習に協力してもらえることが分かった。

また、夏休みの終わりには、金沢自主プランの下見を名目として、学年全員で卯辰山の「平和の子らの像（平和集会で集めた折り鶴をかけた像）」や「殉難乙女の像」、県立歴史博物館の戦争関連のところをじっくりと見学することができた。

この学習に向けて

自分のクラスでは、9月の運動会期間中の落ち着いた時期に、分冊方式で物語をじっくり楽しみながら読むことに取り組むたいと、村中季衣さんの「かむさはむにだ」を7時間かけて読んだ。その中で、在日朝鮮人への差別や戦争時代の日本の加害についても自然な形で学ぶことができていた。

また、これも、自分のクラスではあるが、1学期の後半には、国語科の学級討論会の時間を生かして、現在の問題にも目を向けてほしいと考え、「集団的自衛権」や「原発再稼働」について学習した。

夏休みの宿題には、戦後70年でもあるので、戦争体験の聞き取りや新聞やテレビのニュースについてまとめるカードを出してあった。

学習計画を立てる（以下子どもの名前が出てくるがすべて仮名です。）

11月10日（火）の5、6限目、学年全員で集まり、夏休みの聞き取りを各クラスから2、3人紹介することでスタートした。「全員の報告を聞いた後に共通点などを聞くから集中して聞いていてね」と呼びかけスタートした。先生が紹介したクラスが2クラス、子どもが報告したクラスが2クラスであった。多くが、日本に残って

いた戦争体験の話の聞き取りであったが、戦争に行った人からの聞き取りも3人ほどあった。

T どんな人の聞き取りがありましたか？

C 戦争に行った人と日本に残っていた人

T 戦争に行った人は、場所はどこと言っていたかな？

C ビルマ、タイ、マレーシア、満州、沖縄

T 東南アジアに行ってるね。共通していたことは？

C 食べ物がなく、へびやカエルなど何でも食べた。赤紙（召集令状）で集められたこと。死にかけたこと。

T 日本に残っていた人の共通点は？

C やっぱり食べ物がなかったこと。富山と福井の空襲が見えたこと。なべや鉄くずなどを集めて武器にしていたこと。寺井駅に兵隊さんを見送ったこと。

T 他には？

C 命の危険があったけど助かってくれたことで、私たちが今生きていること。

T 命のバトンをつなげてくれたことだね。最後に、井出君のひいおじいちゃんが今まで言わなかったのに、今回話してくれたのはなぜかな？ビルマの現地の人がかげがをしたおじいちゃんを助けてくれたといういい話もあったのに・・・。

C 言いたくなかったんじゃない？つらかったしじゃない？

T 戦争に行くというのは、

C 相手を殺しに行くということ。

T だから、つらくて話したくなかったのかな。だろうね。では、何で今話してくれたの？

C う～ん。きっと、今話しておきやなきやと思ったんじゃないかな。

T 失礼な言い方だけど、もうすぐ命が尽きる前に伝えておきやなきやと思ったんだね。

その後、次のような話を、自分の方から投げ掛けて、クラスで二つずつのテーマを取り合うことにした。先生は能美市に来て21年。その間に浜小、栗生小、辰口中央小、そして寺井小で2回ずつ合計8回6年生を担当して、能美市のいろいろな戦争の遺跡や歴史を子どもたちと一緒に掘り起こしてきました。

今から、謎が残っているものを紹介するので、クラスで選ぶとしたらどれがいいか考えながら聞いていてね。

①手取川の洪水は、15年戦争中に起こった。その復興をしたのは当時日本に仕事を求めて渡ってきていた多くの朝鮮人であった。1000人も長い間この地域で仕事に取り組むので、自然形で朝鮮人の村ができた。実は、今も5軒残っている。在日朝鮮人の方から直接お話を聞いてみたくはないですか？

②太平洋戦争中、日本はベトナムを占領した。その時、ベトナム人からコメを奪いつくしたことで、200万人の餓死者が出たと言われている。その当時、ベトナムに兵隊として行っていた黒川さんという方が、寺井町に住んでいる。その方は、自分がしたことを戦後50年たってから知り、ベトナムを訪れ謝罪し、募金を募ってベトナムに幼稚園を立てる。そんな戦争体験者の方に直接お話を聞いてみたいと思いませんか？

③戦争の時からあった小学校には必ず二宮金次郎がたっています。さて、二宮金次郎と戦争はどんな関係があるのでしょうか。

④戦争の時からあったすべての小学校に、アメリカと日本が戦争をして欲しくないと考えたアメリカの牧師さんを中心とするボランティアの方々から青い目の人形が送られてきました。手作りの洋服、海を渡るというのでパスポート、つまり一体一体にしっかりと名前までついて。浜小学校にあった人形は、クララバートンといって校長室に飾られていた。鶴来の朝日小学校で見つかった人形の名前はローラ・マーガレット、でも、戦争が激しくなった昭和18年に文部科学省から敵国人形を処分しろ！という通達が生徒の学校に届く。国の方針に逆らえば、「非国民」と差別される時代。さあ、なぜ、ローラマーガレットは残ったのでしょうか。そして、寺井小学校にも送られてきたのかなあ。

⑤太平洋戦争は、アメリカ、ハワイの真珠湾を日本が攻撃したことから始まります。なんと、その真珠湾攻撃

に参加して戦死し根上町のヒーローにされた方のお墓が根上町にあります。なんと、こんなに大きな写真が埋め込まれたお墓。戦後50周年のときに、その遺族のお宅に、アメリカハワイからアメリカの兵隊だった人が訪ねてきたそうです。

⑥戦争当時からあった小学校の横には、天皇陛下を祭った奉安殿というものがありました。子どもたちは、その横を必ず立ち止まり敬礼してから出ないと通れませんでした。また、その横には、日清・日露戦争から戦争で亡くなった人を慰霊する忠魂碑がありました。寺井町にも、色々なところに残っています。そして、その忠魂碑は今でも、8月には法要が挙げられ、管理をする人たちがいます。中には、何が入っているのでしょうか。辰口の忠魂碑は、アメリカの占領軍が来た時に一度壊されてしまったそうです。中には、今でも亡くなった方の髪の毛が入っているとか？では、寺井町では？

⑦寺井図書館にこんな本がありました。なんと、いつ、どこの戦争で、どのように亡くなったのかをすべて調べて書いてあります。これを使って、地図を作ると寺井町の人たちが戦争中どこにいったかもわかりそうですね。根上町の忠魂碑には、女性の名前が3人刻まれていました。どうしてでしょうか？一人の金田きよ子さんは、赤紙ではなく、白紙で、愛知県の豊岡にあった軍需工場に働く人として徴用され、もうすぐ終戦という8月7日にアメリカの爆撃を受けて亡くなったそうです。空襲のなかった石川県ですが、その工場で52名の女性が亡くなり、その慰霊碑が金沢の卯辰山にあるそうです。寺井町にもそんな人がいるのでしょうか？

⑧浜小学校の校歌は3番までありますが、現在は歌っていません。粟生小学校の校歌も3番までありますが、戦争が終ってから3番の歌詞を変えたそうです。さあ、寺井小学校にも校歌の3番がありますね。

クラスで集まり、話し合った。4組は自分の方から、「カムサハムニダを勉強したのは、4組だけです。在日朝鮮人のおばあさんに直接会って話を聞いてみたくないかい？先生はぜひみんなと聞きたいよ」と呼びかけると、みんな素直にうなずいてくれた。その後は、色々な意見が出たが、女子の大多数が「青い目の人形がいい！」と叫び、圧倒的多数で青い目の人形を希望することになった。

クラスの希望が多かったのは、予想どおり青い目の人形、そして、校歌3番のなぞであった。子どもたちは、自分の学校に関係のあることを知りたいのかなと思った。代表がジャンケンすると、青い目の人形は4組になった。子どもたちは、とても喜んでいて。結果、1組が忠魂碑と黒川さん、2組が二宮金次郎と地図、3組が根上町のヒーローのお墓と校歌3番のなぞ、4組が新町と青い目の人形となった。

3週間、クラスで探偵団活動を行い、まとめ、12月15日（火）の5、6限目に学年全体で活動報告会を行うことにした。

深める・追及する15年戦争探偵団スタート

教室に戻り、辰口中央小学校で見つけた写真の説明と沿革史で証拠が乗っているよという情報を説明した。子どもに聞くと、「残された青い目の人形を見に行きたい！」と言う。そこで、「わかったよ。計画立ててみる。でも、まず、みんなが自分で動いて聞き取りしてきてほしいなあ」と伝えた。

その後、題材は決まったので、どのように探偵団活動を進めるか悩んだ。教師が進めてしまうと、子ども主体の学習にならない。しかも、「先生、詳しいし、面白くないなあ」とまで囁かれてしまった。子どもは自分たちで進めたいと思っている。でも、知っているようで基本的な情報を知らない。ならば、まず私が青い目の人形の情報を仕入れた方（金沢の村本さん82歳元教師）に教室に来ていただいて、基本的な情報を一緒に学んではどうかと考えた。情報の根源にあたる！である。早速、電話すると、とてもお元気で、喜んで依頼を受けてくださった。

次の日、子どもに2つのグループに一応分かれて、その中でリーダー副リーダーを決めて！と伝えると、予想外に新町に女子12人が入り、男子を中心とする青い目の人形グループが20人となった。リーダーも立候補で決まった。また、朝の会で東君という男子がおばあちゃんに聞き取りしたことを報告。おばあちゃんに言うとき青い目の人形を知っていると断言して、浜小学校の人形にも名前があったよと断言していると伝えた。実は東君の

祖母は浜少時代の同僚であり、確か3年生の担任で地域の昔話の学習の時に、地域のあるおばあちゃんが、突然「みんな青い目の人形って知っている？浜小学校にもあったのよ。戦争より前の私が小学生の時に青い目の人形は校長室に飾ってあって、私は校長室掃除で、1週間に一回着替えをさせていたのよ。うれしくて、楽しくてね。だから、覚えているのよ。名前は、クララ・バートンと言ったわ。」と話をしたらしく、それを職員室に戻ってきて、当時6年生だった私に話をしてくださった人だったように記憶している。それを、東君の話に付け加えた。

長休みに、青い目の人形のリーダーに、校長先生に言って沿革史を借りてきてもらった。「かなり古いので、大切に扱って、その日のうちに返して！」と言われたらしい。それでも、リーダーたち6人と休み時間を使って順番に見ていくと、ようやく真ん中ぐらいに「昭和2年 5月 亜米利加人形歓迎に関する件」という項目を発見。寺井小学校にも送られてきた証拠があったと確認。次の社会科の時間のはじめに実物投影機を使って全員で確認した。その日は、東君のように聞いてみてねと呼びかけて終わった。

次の日、3人が自主勉強ノートを提出。石黒さんと新宮さんは、石黒さんのおばあちゃんに聞き取りしたことを報告。60歳のおばあちゃんは80歳のおばあちゃんに教えてもらったと言いながら、青い目の人形の歌「青い目をしたお人形はアメリカ生まれのセルロイド、アメリカ生まれのセルロイド・・・」を歌ってくれたようである。出身は小松市の大杉小学校で子どもたちが5年生の時に合宿で泊まった施設の場所にあった小学校であった。嶋田さんは、インターネットで奇しくも同じ歌を調べてきていた。また、石川県に残っている3つの青い目の人形は、輪島の西保小で見つかった「メリー」、津幡の実生保育園で見つかった「ジェーン・オルフ」、白山市の朝日小学校で見つかった「ローラ・マーガレット」であるとも報告した。私は、こういう活動が探偵団活動だねと褒めた。

次の日に、石川県で一番青い目の人形に詳しい人がいるのだけれど話を聞いていたくないか？と投げかけると、「聞いてみたい！」というので、「18日の4限目に来てもらうことにしたよ。」と答え、「しかも、新聞社にそのことを取材してもらいます。」と言うと、「じゃ、その時に情報をください！って呼びかけなければ」と声が出て、リーダーを中心に話せたらいいねという計画になった。副リーダーの畑本さんが、自分のおじいちゃんやおばあちゃん、おばあちゃんの家近くにいる仲良しのおばあちゃんに聞き取りをしてきた。「おばあちゃんは、松任小学校出身で人形はあったけど名前はわからない。歌は知っていた。おじいちゃんは、78歳で寺井小学校出身で歌は知っていて、人形はあったけど、名前はわからない。松田さん79歳は、能登のうちぼ小学校で歌は知っているけど、人形はなかった。歌をみんなが知っているわけは、歌は大正12年に作られていて、ラジオで流れていたから。」私は、おじいちゃんに「どこに置いてあってどんな様子だったか聞いてくるといいね。」とアドバイスをした。

その日の、給食準備中、北中君が「先生、青い目の人形が送られてきたのは何年前だっけ。」と聞きに来た。「どうしてそんなこと聞くの？」と尋ねると、「何歳ぐらいの人に聞けば知っているのかな？と思って…」というので、なるほど聞き取りをするときはそういう基本的な情報が大切だなと思い、「送られてきたのは、今から88年前で、多分知っているのは、94歳以上の人。でも、学校のどこかに飾られていたのなら、76歳以上の人なら知っている可能性があるね。」と全員に話した。図工で指導に訪れた藤田教材さんにも「年齢は？78歳だったら、青い目の人形知っていますか？」と聞き取りをし、「わしは、戦争の訓練ばかりしていたから知らんなあ。」と答えてもらっていた。

次の日は、また、東君がインターネットで全国に残る青い目の人形の名前などを調べてきた。すると、どうも「メリー」という名前が多いらしいと報告。なぜか予想すると、「アメリカ人に多い名前なのかなあ」という声。私からは、「NHKで昭和40年代に放送があった青い目の人形のドラマの人形の名前が『メリー』だったから、もしかしたら記憶違いで覚えているのかなあ」と話した。また、新宮さんもネットで名前に関する情報を調べてきた。

情報の根源にあたるというよ

職員室で、探偵団活動が少しずつ動き始めたよと内容を伝えた。若い二人の先生は、「何で〜。どうしよう、う

ちのクラスなんも動き出してない。」というので、「まず最初に、人に出会わせるといいよ。」とアドバイス。すると、二宮金次郎グループは、小松市在住の郷土史家津田さんに、校歌の3番グループは、校区在住の郷土史家の教員の島崎さんに話を聞く計画となった。また、根上福島町の墓や二宮金次郎を見に行くために能美市のバスを予約した。もちろん、青い目の人形を見に行くバスと新町に見学に行くバスと同時に。どのように学習を進めるか、アドバイスをしながら実践する必要性を改めて感じた。

あれよ、あれよという間に

村本先生から、授業に使うプリント3枚が送られてきた。また、授業の進め方について電話もかかってきた。その後、HABから電話があり、「今度の授業を取材させてほしい。毎週戦後70年として、平和に関する特集を放送しているので、そこに充てたい。」と言われた。こっちとしては、願ってもないことで当日は、新聞社は3社来るは、テレビクルーは来るはで、ものすごい状況での授業となった。

村本さんは、さすが元小学校校長の経験を生かして、とても落ち着いて授業に取り組んでくれた。「途中で2回ほど子どもの質問タイムを取りますよ。」と言ってあったのだが、子どもの疑問を出させてそれを深める形でお話を組み立てていて、子どもたちもとても分かりやすかったと言っていた。

要旨

青い目の人形はなぜ、昭和二年にアメリカから日本に送られてきたのか。その時代は…日本は貧しく、移民を推し進めていた時代。宣教師として日本に20年間もいた、シドニー・ギューリック牧師は、日本人の勤勉さを知っていた。また、子どもたちが喜ぶ、3月のひな祭りの行事も知っていた。日本とアメリカの先行きを心配した人たちが、日本に友好人形を送ることでなんとか食い止めたいと考えた。約12000体、3種類の人形が工場で作られ、ボランティアの方々が、服を、海を渡るというのでパスポートまでも手作りで作って3月のひな祭りに間に合うように2月に横浜港に届けた。寝かすと眼を閉じて、おなかを押すと「ママ～」と言った。日本では、歓迎式典を行い、歌も作って出迎えた。石川県には205体がやってきた。いろいろな学校で、歓迎式が工夫して行われた。(寺井小学校にも、来たんだね。)日本は、お返しに日本人形を送った。身長50cm47都道府県の代表とミス日本、合わせて50体がアメリカに送られた。しかし、アメリカは人形は触って遊ぶもの。文化の違いがあって、着物なども脱がされたりした。

アメリカとの戦争が激しくなり、国から敵国人形を処分せよという通達 came。英語を使うなど言われた時代。どの学校でも、子どもたちと相談し、燃やしたり、殴って壊したり、その灰を足で蹴散らしたりした。日本から送った人形は大切に博物館などに保管されていたのに。

戦後、30年たって、群馬県のある小学校で隠されていた人形が見つかった。初めに見つけた人は、処分しなかったと叱られるのではないかと心配したが、そんな時代の中にあっても「残そうとした」人がいたことで、ニュースとなった。すると、全国各地で330体ほどが現在までに見つかってきている。石川県では、津幡の保育園のジェーン・オルフ、鶴来朝日小学校のローラ・マーガレット、輪島の西保小学校のメリー。この3体が残っている。青い目の人形というけれど、目が青いのはメリータイプだけ。西保小学校では、「人形には罪はない」と考えた校長先生に頼まれた女の先生が、自分の家に持ち帰り隠しておいたものが出てきた。津幡の保育園でも、園長先生が近くの公民館に隠してあったものが見つかった。人形が見つかるのは、そんなストーリーが一つ一つあるのだ。

新聞社やテレビの取材に対して

授業後、報道陣が「今まで調べてきたノートはないですか？」と問いかけたので、自主勉に調べてきた5



人がノートを出し、調べてきた経緯などを話した。また、リーダー、副リーダーの2人は授業の感想とともに「情報を寄せてほしい」とメディアに訴えた。次の時間が給食だったので、その時間も使って子どもたちはたつぷりと取材を受けた。朝日新聞の記者は、私に、「このご時世に、このような授業をやっても大丈夫なのですか？」など質問してきたが、私は「子どもたちが主体的に調べ、歴史を掘り起こすことは何も悪いことではないと考えます。」と答えた。

子どもたちの感想から

・一番心に残ったのは、「人形をこわす」といったところです。きのうまで、大事にしていた人形を戦争がはじまると、すぐにこわしたり、燃やしたりしたというのが心に残りました。それでも、こわさずに隠した人は、すごいと思いました。一体の人形の裏で、いいストーリーがあったりしたんだなと思いました。杉本

・聞き取りしてもわからなかったことが、村本さんの話を聞いて良くわかりました。家の中にかくして30年後に見つかったという話はすごいなと思ったし、おもしろい話もたくさんあって聞いていて楽しかったです。今日は本当にありがとうございました。畑本

・石川県に3タイプ（全タイプ）の人形があってすごい！処分しなきゃいけないのに、こっそり隠していることも、すごい勇気があるなあと思います。もしも、隠していることがばれたら、その人も、人形も、処分されるかもしれないのに…。嶋田

・自勉で調べてきた人の話を聞いても、わかったことや学ぶことがあったけど、やっぱり石川県で一番よく調べて知っている人の話は、説得力があるなと思いました。北

新聞記事とともに感想を学級通信として紹介した。

次の日、畑本さんが、新聞記事を切り取って、寺井小学校の青い目の人形を見つけたいなと書いた自主勉ノートを提出した。北さんは、ネットで、青い目の人形を題材としたアニメもあり（30分ほど）埼玉県のパラダイム博物館で上映されていることを調べてきた。

また、テレビからの情報で、静岡県の博物館に青い目の人形が保存してある話や、ジェーン・オルフの紙芝居をボランティアでしている津幡町の方から連絡があった。津幡町の方には、後日教室に来ていただき紙芝居をしてもらうことになった。（他にも2人の方から電話があった。）

新町の学習で一番大切にしたいことは…

12月1日に新町にバスを使ってクラス全員で尋ねることができるようになった。新町出身のロさんとチェさん（いつもお世話になっている尹さんの奥さん）に直接お話を聞くことができる。その前に、差別について考え、どうしたら無くしていけるかを子どもたちと考えておきたいと思った。理由は、この学習で一番子どもたちに考えてほしいことだからだ。11月24日に私がなぜ、新町の学習をするようになったのかという話と（新町のことを授業で取り上げてもいいか、新町の尹さん宅に行って聞いてきた時の話）、新町の歴史を踏まえた上で、質問を考え12月1日を迎えたいと考えたからだ。

子どもたちは、差別をなくすためには、そのことに触れずにそっとしておくのではなく、しっかりと話を聞いて、学習することが大切だというまじめに至った。その後、2人に聞きたいことを出し合い、見学の手配を立てた。



実際にローラ・マーガレットを見てくる中で・・・問いを整理する

バスの中で、もう一度輪島のメリーが保存されていた様子を、村本さんが書いた本を紹介する形で復讐した。「人形には罪はない」と考えた校長が、当時の同じ学校の訓導の自宅に人形を隠すように指示したことなど、そ

の訓導の子どもである方から聞き取りする形で村本さんは歴史を掘り起こしていた。また、津幡のジェーン・オルフも、人形を壊すべきではないと考えた保育士が、近所の酒屋の蔵に隠して保存したことを前回の取材を報道した朝日新聞の記事を読む形で確認した。その後、ローラ・マーガレットを見に行くにあたって知りたいことを出し合った。

- ・鶴来の朝日小学校では、どこで見つかったのか？
- ・パスポートは残っていたのか？
- ・名前は、どのようにしてわかったのか？
- ・人形は、ママ〜と泣くのか？寝かすと眼をつむるのか？
- ・写真とかは残っているのか？



白山市立博物館に到着すると、学芸員の方が展示してある場所まで、案内してくれた。ケースに入っている人形を見ると、思っていたより小さいなあというつぶやきが聞こえてきた。学芸員さんが、ガラスケースから出して

くれると「わあ〜！」という歓声が上がって、子どもたちは自然に近づき、じっくりと見ていた。寝かすと、目を閉じるし、起こすとママ〜とまでは聞こえないが、何か機械音のようなものが聞こえた。昭和57年に朝日小学校で大掃除の際に見つかったらしい。学芸員さんは、村本さんの本からの情報と言っているのも、もっと子どもたちとその本を熟読するの必要性を感じた。パスポートはなかったと言っていたので、「どうやって名前が分かったのですか？」と質問すると、名前が分からないままに鶴来博物館で展示していた時に、たまたま訪れた石浦さんというおばあさんが「あら、ローラ・マーガレット！だわ。」とつぶやいたことで、名前がわかったらしい。子どもたちは、その事実、自分たちも聞き取りをしっかりとすれば、寺井小学校の青い目の人形の名前が分かるかもしれないと思った。写真のことを質問すると、朝日小学校に合併した白山小学校の青い目の人形の歓迎会の写真が見つかったとのこと、よく見ると代表者の方が青い目の人形を抱っこして映っていたが、その子は、白山姫神社の宮司さんの娘だったよう



だ。しかも、学芸員さん自身が、朝日小学校の出身で、昭和40年代の小学生時代に確か図書館に飾ってあったらしいことを覚えていると発言し、子どもたちはしっかりと聞き取りに取り組むことの必要性を感じた。

帰りのバスの中では、今後の取り組みを確認した。子どもたちからは、寺井小学校の青い目の人形の行方を知るために、まず、校内の搜索をしたいという声が上がった。また、戦前の寺井小学校があった、現寺井中学校の近くの蔵がありそうなお家への聞き取りをするとわかるのでは？という意見も出された。また、寺井小学校出身の祖父母への聞き取りをもっと行いたいという声も上がった。自分からは、畑本さんの78歳のおじいちゃんが、「あった」と証言してくれているが、戦後にもあったのかどうかを聞きとる必要があると指摘した。もし、そうであれば、寺井小学校の青い目の人形は処分されなかったという証拠になる。また、沿革史の昭和18年3月の記述を探す必要があることも確認された。これらを画用紙に書き、教室に掲示した。

感想から

・青い目の人形なのに黒い目だったり、パスポートがなくなっていたのに、石浦さんというおばあさんが、名前を覚えていたり、思ってもいなかったことがいっぱいあって、人に話を聞くことやしっかり自分の目で見ることは大事だと思った。そして、ローラ・マーガレットは目を閉じたり、開いたりしていい経験をしたと思いました。寺井小の人形の名前は、どんな名前だったのかや、あるのかなどを知りたいです。井出

・青い目の人形についていろんな事を教えてもらったし、ローラ・マーガレットを間近で見せてもらえて見学に行っても良かったです。目が開いたり、閉じたりすることが分かったし、「ママ～」とは言わなかったけど、なんか「〇〇〇」と言っていたので、88年前の人形なのに、「スゴイ！」と思いました。新宮これも、お便りにして保護者にも伝えた。(つながりあって50号参照)

他のクラスも頑張っている！

地図を選択した中野先生のクラスは、シールを張る作業を終え、殉難乙女の像に関係する「杉本久子」さんの存在にも気が付いた。住所で小杉町ということがはっきりし、小杉町に住んでいる遺族から話を聞き取りしようという方向になったらしい。また、能美市の小学校に残る二宮金次郎を巡るバスツアーも津田さんと一緒に回るように計画している。

校歌の3番の謎を追いかけている3組の葛西先生たちは、島崎さんから話を聞いたことで、調べる意欲に火が付いたようで、自分たちで校歌のことをよく知る4代前の校長先生の家に行ったり、図書館に言って、寺井町史や、校歌に出てくる「牧野の山」に関する本を借りてきたりと、子どもたちが動き始めている。でも、一番はまっているのは、担任の葛西先生で、ずっと職員室でその話題ばかりを話し、資料室に眠る校歌に関する写真や古い資料を子どもたちと昼休みを使って発掘するなど、謎を掘り起こすことがいかに楽しいかを実感したようである。

新町の見学と聞き取り

12月1日3,4時間目を使い、能美市のバスを借りて、新町へ子どもたち全員とうかがった。行きのバスの中では、外国人登録証の話や以前の指紋押捺のことなど差別的に取り扱われている事実を説明しながら行った。バスの運転手も行ったことがないので、どこかわからないと言っていた。チエさんとロさんは、集会所(8畳ほどでよく35名も入れたと思うが)をきれいに掃除して待っていてくださった。

はじめは、とても緊張した雰囲気だったが、プリントをもとに私が聞く形で質問していく中で、少しずつ和やかになっていった。子どもたちは、チエさんが、小学校の時に先生にまで差別されて、苦しくて学校をさぼったことがあるという話や、ロさんが、富本という通称名を大学時代に、もう二度と使わないと「捨てた」話に、インパクトを感じたようである。黒板もあったので、私が「自分のルーツや民族に誇りをもって生きること」と板書をする中、差別もある中でロさんが、名前に誇りをもって生きていることに心を動かされたようであった。終わりの方では、「朝鮮語を教えてください」という質問も出されて、2人の会話や簡単な単語を教えてもらうなど、楽しい雰囲気で終わった。普通にお礼を言って帰ろうとしたときに、高田くんという男子が、チエさんのところに行って「カムサハムニダ」と言ったことから、チエさんがとても感動していた。それに触発されてみんなが「カムサハムニダ(ありがとう)」「アンニョ(さよなら)」といいながらバスの中から二人に手を振る様子は素敵な交流になったと感じた。これも、学級通信にして保護者にも広げた。



感想から

・私は、差別がなくなればいいなあ～と思いました。チエさんもロさんも実際に差別を受けたことがあると言っていて、自分たちの身近に起こっていることが分かって、考えていけないといけないなあと思いました。ロさんは、日本の名前をやめて、自分の名前に誇りをもって生きているのはスゴイことだなあと思いました。

私は、朝鮮人のこととかを未来に伝えていくことは大事だと思うし、朝鮮のことを理解し「ヘイト・スピーチ」などの差別をする行為をなくしていけたらいいなあと思いました。みんなが差別とかを受けずに、一人一人に権利があって毎日楽しく生きていける世界になってほしいです。チエさんロさんありがとうございました。カムサハムニダ。

寺田

・差別を受けたりしていたのに、その中から楽しみを見つけて楽しく生きていてすごいと思いました。お父さんやお母さんを朝鮮語でどういふかはじめて聞いて、朝鮮のことを知りたいと思いました。大人になったら、ロさんやチェさんがされていたような差別をなくしたいと思いました。 高木

調べ学習が広がる

青い目の人形について、畑本さんのおじいちゃんが、元寺井小学校の校長だった粟生町在住の本間さんという女性（91）に聞き取りしてきてくださった。「本間さんは、子どものころに人形を見たことがあり、当時の寺井小学校の図書館の棚の中にあつたそうです。名前はわからないが、目は青かつたそうです。ママと言つたりしたのか？と聞くと、ガラスケースに入つていたので、触ることができなかつたので、わからないと言つていました。」畑本さんは、どこにあつたかわかつて良かつたです。また、おじいちゃんが知つている人に聞いてみると言つていましたと報告。

家が、今の寺井中学校（昔の寺井小学校）の近くにあり、家に蔵がある嶋田さんは、家に青い目の人形がないか聞くと「なかつた！でも、お父さんのおばあちゃんの妹が倒したら目をつむる青い目の人形を持つていたよな・・・でも、それは、ちがうだろう」と報告。「もっと、そういう探偵をしてほしいなあ」と私はアドバイスした。

人形がセルロイドだと思ひ込んでいた私たちに、白山市立博物館の学芸員の方が、「どうも違ふらしい」と言つたことにこだわつた開発くんが、ネットで、コンポジションドールと言つてパルプやおが屑、土をねり混ぜた上で精製し、乾燥させて、糊やグリセリンなどを混ぜたものを仕上げ塗りし、顔を書き入れた人形だつたと報告。また、旧植民地の樺太や台湾、朝鮮などにも送られていて、全部で319体が内閣拓殖局へ割り当てられたとも報告。

12月3日の給食時間には、リーダーの開発君がもう一度沿革史を借りてきて、昭和18年3月の人形を処分しろと通達が来てからの記録を調べたが、記録がないことが明らかになつた。これで、「処分されたかどうかはわからない。」ということが、はっきりした。

その日は、5限の日で、晴れていたので、「探偵団日和だね」と帰りの会に言うと、青い目の人形グループの東さんと善田さんが放課後職員室を訪れ、「先生！どなたのところに行けばいいかわからん。教えて！」と言ふので、「例えば、元寺井小学校の校長先生の醤油屋さんが寺井中学校のところにあるやろ。そういうところを突撃取材するといふよ。」とアドバイスした。翌日、報告を促すと、なんと9軒も訪ねて、聞き取りしてきてらしい。詳しく聞くと、「まず、元校長先生の朝倉さんを訪ねたが、誰も出てこなくて、次に名前はわからないけど古そうな家で蔵があるところ（たぶん、市長の酒井さんのおうちではないか）に聞いたら『わかりません』と言われて、次に塩村さんという家に行ったら『しらない』と言われて、次にお寺に行ったら、『知らないけど、歌は知つているよ』と言つて、歌つてくれて、次に井出さんの家に行ったら『わからない』と言われて、次に南さんという家に行ったら、ちょっとこわそうなおばあさんが出てきて『知りません！』と言われて、次に松坂さんと言ふ家に行つても『しらない』と言われて、もう一度最初の朝倉さんの家に行つたらおじいちゃんが出てきたけど、耳が遠いので画用紙に書いて説明したけど、『見えん！日曜日においで、家の人いるよ。』と言われ、最後に中川さんという家に行くと『しらん！』と言われた。」と報告。クラスのみんなは2人の行動力に笑いながらも感動していた。私は、「これこそ探偵団活動やね。」と絶賛した。

12月4日の昼休みに善田さんと畑本さんと東さんとともに、学校の資料室などに何か残つていないかを探した。社会科資料室に明治天皇の写真帳（もしかしたら奉安殿に入つていたもの）があつた。また、教材室の写真がたくさんあるところでは、元の寺井小学校の校舎内を写した写真を見つめて、図書室の部分を詳しく見たが、残念ながらガラスケースなどは写



っていなかった。

職員室で報告すると、他のクラスにも、(1組) おじいちゃんに頼んで隣の粟生小の忠魂碑を見に行ったり、(3組) 墓グループでは、寺井中学校の横にある10体以上の墓の言葉を全部書き写してきたり、子どもたちが動き始めていることが報告された。(1組) 講師の93歳の黒川さんが聞き取りの答えをパソコンで打ってきていて、その内容にやっぱり体験した方でないと書けない重いものを感じ4人の担任一同が感動したり、講師の島崎さんが「もっと、こんな情報あるよ(金属抛出の時に焼き物で通貨がつかれていて、その本物を持っている)」とわざわざ寺井小に電話をかけてくださったり、この学習が地域の方みんなに支えられて行えていることがわかりとてもうれしくなる毎日であった。(2組) 殉難乙女の像につながる戦没者の遺族の家に言って、聞き取りをしてきたことも報告された。ただ、天気が悪いので、もう少し早い時期に取り組みばよかったねという声も他の先生から出てきた。

12月11日 ジェーン・オルフの紙芝居を見る



11月の後半 HAB のニュースを見た津幡町在住の桑江さんという方が、寺井小学校に電話をしてきてくださった。話を聞くと、「ボランティアで紙芝居を読んでいるが、津幡のジェーン・オルフについての紙芝居も呼んで広めている。もし、よかったら寺井小学校に読みに行ってもよい」という内容だった。子どもたちにその旨を伝えると「ぜひ、みたい!」と言うことで、11日に実現した。子どもたちは、ニュースに反応してくれたこと自体うれしかった様子。桑江さんの演じる紙芝居を集中して見ていた。ジェーン・オルフは、人形がかわい

そうと感じた保育園の先生の手によって近くの酒屋の蔵に隠されて、壊されなかったという内容である。その後、質問タイムを取ると

C この紙芝居はどうして作られたのですか?

桑江さん 津幡の実生保育園の先生方が、ジェーン・オルフの歴史を伝えようと書いた絵本をもとに作られたものです。私は、それを読んで広めているだけです。

C なぜ、桑江さんはこの紙芝居を読んでいるのですか?

桑江さん (青い目の人形の歴史を熱く語った後) 戦争は、人を狂わせます。平和の大切さを伝えたいと思い紙芝居を読んでいます。この紙芝居を村本先生がお聞きになったことで、石川県には3体が残っているということが、わかったのです。私は、いろんな紙芝居も読んでいます。野間りん知っていますか。野間りんから読み方を習ったのですよ。

その後、子どもたちの感想を交流して終わりました。感想には、「青い目の人形の歌がとても素晴らしかった」というものや、「ジェーン・オルフがとてもきれいな状態で残っていてよかった。私も津幡に行って観てみたい」「桑江さんの人形に対する情熱がすごいと思いました。」などが多かった。これも、学級通信にして保護者にも広めた。ちなみに、このことも北國新聞にのり、畑本さんがその記事を見つけて自主勉ノートで「桑江さんもこの記事を読んでいるといいな」と報告した。

チエさんのキムチを堪能

12月8日、チエさんの家に子どもたちの感想を持っていったときに、チエさんから手作りのキムチや漬物もらった。チエさんは、私に食べてほしいと思ってくれたのだが、私はこのキムチをクラスで食べることで異文化理解が広がると考え、次の日教室で試食をした。最初は「辛〜い」と顔をしかめていた子どもたちであったが、慣れてくると次第に「おいしいから、もっと頂戴!」となり、あれよあれよという間に結局



教室に持って行ったキムチは完食していた。子どもたちは、「辛かったけど、おいしかった。スーパーとかに売っているのと違う。」と言っていた。

1 5年戦争たんてい団発表報告会に向けてまとめる

12月15日の報告会に向けて、1週間ほど前から2つのグループに分かれて、リーダーを中心に、大きく取り組んだこと3つずつに、また分かれて5、6人で自分たちの取り組んだことを場面別にまとめていった。それを私がパソコンで打ち直して発表原稿を作り、パワーポイントで子どもたちが映してほしいと言った写真を写しながら発表する形式にした。途中、劇なども入る計画となった。それが、以下の原稿である。

新町グループ

今から、新町グループの発表を始めます。礼

11月24日に北川先生に新町の歴史について話を聞きました。先生は、新町と深い関係があるそうです。

1910年の韓国併合で、日本に土地や仕事を奪われた朝鮮人の人々が、生きていくために外国に移り住まなければならなくて、多い時には240万人もの人が日本に来ていたそうです。そんな中、昭和9年(1934年)に手取川の大洪水が起こったそうです。その復旧に大変な労力が必要になった時に、日本に渡ってきていた朝鮮の人がたくさん働いたそうです。堤防工事を行った川北、寺井町にはたくさんの作業場ができ、その近くには朝鮮人の村が自然にできたそうです。そのころ、新町にも人が住み始めたそうです。新町は、一番多い時には、45、46軒の家があったそうです。そまつな家で、屋根一つ作って、部屋だけをいくつか作り、その部屋に家族4人ほどが暮らしていたそうです。当時から、差別もあったそうです。戦争が終わり、戦後の民主化の改革の一つに、農地解放という取り組みがあり、小作をしている人にその田んぼを渡すという決まりができました。新町の人たちは、洪水の復興をした後、元通りになった田んぼの世話をしていました。すると、朝鮮人でも小作をしていたら土地をもらい権利があるよと助けてくれた日本人のアドバイスもあり、新町の人たちも田んぼを手に入れることができました。日本に残った朝鮮人で田んぼをもつことができたのは、全国的にも大変めずらしいことだそうです。

新町は今、5軒が残っていて少しずつ道路が整備されたり、電気が通じたり生活も改善されてきたそうです。私たちはこの話を聞いて、差別を無くしていくためには、しっかりと話を聞いて、交流したり学習したりすることが大事だと改めて思いました。

12月1日新町に実際に行ってチェナムスンさんと、ロスギルさんにお話を聞きました。新町は、フィッシュランドの近くにあります。2人は在日朝鮮・韓国人の2世です。チェさんの日本名は、はたひら初子さんと、74歳です。(チェさんの写真)昔は、製糸工場で働いていて、今は掃除婦として働いているそうです。実際に質問の様子をやって見せます。

*質問者 真央→チェさん役 夏帆

次に、ロスさんにお話を聞きました。(ロスさんの写真)ロスさんは、日本名を富本と言いますが、大学時代からそれを捨てて本名で生きているそうです。現在62歳で、前まで福井にある朝鮮人学校の先生をしていて、今は他の朝鮮人の方の悩みの相談に乗る仕事をしています。もう一度、質問の様子をやりませう。

*質問者 真央→チェさん役 夏帆

ちなみに、石川県には現在でも、在日韓国・朝鮮人の方が2500人ほどいるそうです。2人は「日本をいい世の中にして欲しい。身近な外国人のことや異文化のことも勉強してほしい」と言っていました。最後にカムサハムニダと、朝鮮語の言葉で「ありがとう」と言うと、ちゃんと通じて笑顔で、バイバイしてくれました。

12月8日の5限目に、チェナムスンさんが作ってくれた本場のキムチを食べました。味は、口から火が出るほどからかったけど、おいしかったです。私は、おじいちゃんに朝鮮人への差別が昔はあったのかと聞き取りをしました。すると、「実際にあった」と答えてくれました。新町の学習を通して、チェさんやロスさんと仲良くなれたと感じました。これからも差別がないようにしたいです。

これで、新町グループの発表を終わります。

青い目の人形グループ

今から、青い目の人形グループの発表を始めます。礼

ぼくたちのグループは、はじめに北川先生が知っていた、石川県で一番良く青い目の人形のことを調べている金沢の元校長先生で現在 82 歳の村本さんからお話をうかがうことにしました。ぼくたちは、新聞などに取材してもらうことで、「寺井小学校の青い目の人形についての情報」を集めることにしました。当日は、村本さんから聞いたテレビ局も取材に来ていて、とっても緊張しました。その時の新聞記事です。アメリカから日本には 11970 体の人形が送られてきたそうです。石川県には 205 体を送られてきたそうです。日本のひな祭りに間に合うように 2 月 22 日に横浜港に届いたそうです。人形は、3 種類あるけど、目が青いのはそのうち一種類だけだそうです。石川県には現在 3 体が残っています。輪島の西保小学校で見つかったメリーと、津幡の実生保育園で見つかったジューン・オルフと、鶴来の朝日小学校で見つかったローラ・マーガレットです。たまたま、その 3 種類が 1 つずつ残っているそうです。人形は、寝かすと目を閉じるし、おなかを押すと「まま～」としゃべるそうです。海を渡ってくると言うので、ボランティアの人が洋服からパスポートまでぜんぶ手作りで作ってくれたそうです。

アメリカが、青い目の人形を送ってきたから、かわりに日本もクリスマスに間に合うように 47 体の答礼人形を送ったそうです。アメリカとの戦争がはげしくなった昭和 18 年ごろに国の命令で人形を壊す学校がたくさんありました。残った人形は、そのような中でも「人形に罪はない」と考えた先生達が命をかけてかくしたから残っているのです。

一番心に残ったのは、アメリカとの戦争が始まって、人形がどうなったかのところです。燃やしたり壊したりして国から言われても、そんなことをするのはひどいと思いました。

11 月 25 日の 5 限目に、ぼくたちは白山市立博物館まで、朝日小学校で見つかったローラ・マーガレットを見に行きました。人形は 30cm ぐらいの大きさで、ねかすと目を閉じて、音も少しだけ出ていました。目は栗色で青くないタイプでした。昭和 18 年 3 月に学校で処分されたはずの人形が、昭和 57 年の 9 月の大掃除の時に学校の物置で見つかったそうです。パスポートは残っていなかったの、名前もわからなかったそうです。鶴来博物館に展示されてしばらくしたときに、たまたま見に来ていた、いしうらさんというおばあさんが「これは、ローラ・マーガレットだわ。」と言ったことで、名前が分かったそうです。この見学で、寺井小学校にも青い目の人形がまだあるかもしれないと思いました。元寺井小学校だった、今の寺井中学校の近所のおじいさんやおばあさん、それから当時の先生などに聞き取りをすればいいのではないかと考えました。

ぼくは、人に話を聞くことや、しっかり自分の目で見ることは大事だと思いました。

ぼくたちは、まず沿革史を校長室から借りてきて、本当に寺井小学校に青い目の人形が来たのかを調べました。昭和 2 年の 4 月の職員会議の議案に、「亜米利加人形歓迎方法に関する件」と書かれていたので、寺井小学校にも確実に送られてきたことが分かりました。そして、昭和 18 年度を探しても壊したという記録は残っていませんでした。寺井小学校の人形は壊されたとは限らないということが分かりました。

私のおじいちゃんが粟生町在住の本間さんと言う人に聞き取りをしてくれました。本間さんは、1924 年大正生まれの 91 歳のおばあちゃんで、元寺井小学校の校長先生をしていたそうです。本間さんは人形を見たことがあり、当時の図書室のたなの上にあったと言っていたそうです。名前はわからないが、目は青かったそうです。人形は、ガラスケースに入っていてさわれなかったそうです。だから、寝かすと目をつぶるとかはわからないそうです。

次に、せりなさんとさいかさんが寺井中学校のまわりで聞き取りをした様子を劇で再現します。

よし！聞き取りいこう！（せ）お～！（さ）元校長先生の朝倉さんの家に…ピンポーンすみません、すみません・・・。（せ）じゃあ、あそこの家に行こう！（さ）ピンポーン（せ）はい（さ）すみませ～ん。青い目の人形について知っていますか？（せ）う～ん、本でしか読んだことないね。（さ）あ、分かりました。ありがとうございます。（せ）次は、塩村さんの家いこう！（さ）ピンポーン（せ）あの～、青い目の人形について知っていますか？（さ）知らんわ～、ガチャ（せ）あ、分かりました。（さ）お寺行こう！（さ）え～、怖くない？（せ）

だいじょうぶやって(さ)(手を引いて)ピンポン、はあ〜い(さ)青い目の人形について知っていますか?
(せ)あ〜、歌なら知っているけど知らんわ。(さ)ありがとうございます。(せ)

こんなふうに、2人は、10軒も聞き取りに回ったそうです。結果は、何もわからなかったけど、これこそ15年戦争探偵団ですね。

寺井小学校の学習室などを調べましたが、青い目の人形に関するものは何もありませんでした。でも、こんな明治天皇の写真帳がありました。たぶん、戦争中に奉安殿に入っていたものではないかと考えられます。

新聞やテレビを見て学校に4人の方が連絡をしてくれました。その中に、津幡町にお住まいの桑江さんと言う方がいます。桑江さんは、ジェーン・オルフについての紙芝居を色々なところで読み聞かせをしている図書ボランティアの方です。12月11日に6年4組の教室に来てくださってジェーン・オルフの紙芝居を読んでくださいました。紙芝居は実生保育園の先生方が歴史を伝えたいと考えて作ったものでした。桑江さんは、青い目の人形のことや平和の大切さを伝えたいと思い紙芝居をしているそうです。

私は、あんなきれいな状態でジェーン・オルフが残っていてよかったなあ、津幡に行って見てみたいなあと思いました。

これで、青い目の人形の報告を終わりますが、今後も調べ続けたいと思います。礼

12月15日発表報告会

一つの発表に8分という時間制限をもって報告会に臨んだ。はじめに、私の方から8つの発表に共通することは何かを考えながら発表を聞いてくださいと伝えてから発表に入った。どのグループもとても上手に一生懸命自分たちが調べたことを報告していた。(他のクラスの報告の内容は資料の他のクラスの学級だよりなどに詳細をゆだねることとする)私は、発表後に質問タイムを取り内容を深めさせたいと考えた。1組の忠魂碑の報告後には、「忠魂碑は靖国神社の小さい版だという報告があったけど、みんな調べてみて、戦争に行った人はえらいなあと感じましたか?」と聞いた。一人は「ぼくは、命令に従っていったので偉いと思いました。」と答え、またもう一人は「ぼくは、人を殺しに行ったのだから偉いとは思いません。」と答えた。私は、「靖国神社の問題も今のように意見が分かれている問題だよ」と付け加えた。2組の戦没者の地図グループの後には、最大で広がった戦争の地域の確認と、なんと自分から5人の遺族の方々に聞き取りをして報告した女子3人に対して、すばらしい活動だと評価した後に、「殉難乙女の像に祭られる52名のことは、空襲の被害に遭わなかった石川県の中でも挺身隊として他の県に派遣された人たちがなくなることもあったという事例として知っておく必要があると押さえた。ただ、後半は、時間が迫ってしまって残念ながら質問を通して深めることはできなくなってしまった。

全部の発表が終わってから、次のようなやり取りをした。

T 8つの発表に共通していたことは?

C 戦争に関しているということ

C 詳しく話してくれた人や手伝ってくれた人がいるということ

C 戦争を繰り返してはいけないということ

C ぼくたちが、このことを伝えていかなければいけないということ

C 戦争は、やめてほしいなあ、したくないなあという気持ち

C 平和になってほしいなあという願い

T なるほど、その通りだね。教えてくれた方々はみんな年齢の高い方だったけど、一生懸命教えてくれて輝いていたね。さあ、今後はどうするか?自分たちの課題で、まだまだ質問に答えられなかったり、深めきれなかったりしたところはあるね。例えば、青い目の人形とかは見つかってないね。他にもなかったか?

C 3組は、校歌のことで「牧野の山の松の木」は、もうなくなってしまったとわかって、何とかしたいと思っ



ているよ。

T なるほど、では、今後も各クラスで活動が続けてください。

感想から

- ・最初8つのグループの共通点が思いつきませんでした。でも、『戦争はだめっていう平和になってほしい願いを後世に広めていかなければいけない』っていうのはたしかに！と思いました。それぞれのグループで勉強しようとして調べるときに、その時の話をしてくれたり、自分たちでわからないことについて知っていることを教えてくれたりした人がいることもあるから、ちゃんと自分たちがつたえていなければいけないんだなと思いました。忠魂碑とか二宮金次郎とか校歌とか新町とか身近なことがいっぱいあるなと聞いていて思いました。

林

- ・ぼくは、黒川さんの話がいいなと思いました。わけは、分かりやすく説明し声も大きかったからです。黒川さんは正しいことをベトナムの人のためにしているからすごいです。本を出して、ひきょう者だとか、売国奴と言われても、自分の信じることを貫き通していたから本当にすごいと思います。 北
- ・特に校歌の3番のなぞの話が心に残りました。3題目の『学びの道にいそしまん』が『君のためにぞつくさん』になっているとしっかり調べていてすごいと思いました。 井出
- ・3組の校歌の謎の時に天皇という言葉が出てきたから、私たちが見つけた（明治天皇の）写真帳と共通しているのかなと思いました。どのクラスも分かりやすく発表していてよかったです。これからも青い目の人形のことを調べていきたいです。 畑本

これも、学級だよりにまとめてお知らせした。（つながりあって56号）

その後、畑本さんが青い目の人形の47の答礼人形にはどんな名前があるかネットで調べてきました。〇〇絹子さんが多いなど傾向があったようだ。

実践を振り返って

学年全員で取り組んだが、一生懸命になっている子どもそれぞれのクラスにいて、子どもの問いを育てることに少しはつながったかなと思った。私自身も知らなかった情報が出てきたり、自ら地域を回って聞き取りを行った子どもたちの存在があったりしたこともうれしかった。また、他のクラスの学年の先生4人で協力して行えたことはとてもよかったし、この取り組みで地域の歴史を掘り起こす意義などが、子どもたちや特に若い先生方たちにも伝わったのではないかと感じよかったと思う。また、その中で自然に平和について考える力がついていったとも思う。

私の4組では、まだ、青い目の人形に関する情報が出てきたわけでもないのですが、例えば、寺井小学校の青い目の人形を見た栗生在住の本間さんに直接インタビューしに行ったり、学校の倉庫の写真探しの続きをしたりと、少しずつ継続していきたいと考えている。（後日実現した。）

「牧野の山の松の色」の取り組みとしては、牧野の山の生き残りとして存在する寺井山の松を卒業記念と兼ねて校地に植樹する方法もあると学年の先生方では話し合っている。（植樹をして育てている。）

おわりに

今回、半分無理やり頼み込まれたの平和集会へのレポート報告であったが、他の県の提案を聞いても、新町のように直接的に人権にかかわる地区の方と出会って子どもたちが学んでいる報告は無かった。終わってからは、他の県の方々から、とても面白い報告でした。子どもたちが自ら動くところが素晴らしいですという反応をいただいた。教研の形が変わり、平和教育にこれだけ没頭する実践がなかなかできない現状はあるけれど、決して無くしてはいけないものがあると感じ、今日の提案も自分からさせていただいた。